



EXTRA, EXPERT AND EXTREME
EXPRESS--

2007 VOL.
3



**爆発的な速さを見せる秋吉耕佑がレコードを更新!
決勝は56秒台の超接近戦が繰り広げられる!?**

Photo by H.Wakita(c)



予選2番手 / #81 阿部典史 ワイズギアレーシング



予選3番手 / #39 酒井大作 ヨシムラススキwithJOMO

JSB1000
AII JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

●予選日: 天候 / 晴れ 路面 / ドライ ●決勝コースイン / 14:05 スタート / 14:20 (30周)

全日本ロードレースで一番タイトなコースでもある筑波ラウンド。1周のラップタイムは1分を切り、迫力の接近戦が繰り広げられる。

昨年、筑波ラウンドでJSB1000とST600でダブルウインを飾っている渡辺篤が、今回も速さを見せるのは確実と思われたが、金曜日の午後には転倒。予選タイヤでのアタック中に転倒したのは初めてと語り、この転倒の影響もあり予選も攻めきれなかったという。「フロントロウに並びたかったけれど仕方がない。去年のレースもボクと伊藤さんは56秒後半で周回していたし、今年は、それ以上のペースになるだろう。みんな速いけれど変な自信があるんだよね(笑)。周回遅れに注意しながらいこう」と渡辺。ベストタイムは、決勝用タイヤで記録したものであり、タイヤのライフも全く問題ないと自信を見せる。

ポールポジションを獲得した秋吉耕佑は、今回も爆発的な走りを見せてくれた。「予選1回目にタイムが出せたので、2回目にガラッとサスセッティングを変えたら、それがよかった。抱えている問題が少なくなってきたので、いい感じだと思う」と昨年の第5戦SUGO以来となるポールポジション獲得した秋吉。豪快なスライド走法は必見だ!

ノリックも最後の最後に魅せてくれた。予選1回目を終えた時点では「失敗してしまった」と語っていたが、予選2回目のセッション終了間際にタイムアタックに入ると秋吉に肉薄するタイムをマーク。僅かに届かなかったが、セカンドグリッドから今回もスタートダッシュを見せてくれそうだ。

(中面へ続く)

TIME TABLE

※タイムテーブルは、変更されることがあります。

09:50 -	GP-MONO スタート進行(コースイン～選手紹介)
10:05 -	GP-MONO 決勝レース.....18Laps
10:40 -	GP125 スタート進行(コースイン～選手紹介)
10:55 -	GP125 決勝レース.....30Laps
11:45 - 12:05	ビットウォーク(タンデムイベント)
12:25 -	UAM(アジアネーションズ・オブ・ロードレース) 決勝レース2.....12Laps
13:00 -	ST600 スタート進行(コースイン～選手紹介)
13:15 -	ST600 決勝レース.....30Laps
14:05 -	JSB1000 スタート進行(コースイン～選手紹介)
14:20 -	JSB1000 決勝レース.....30Laps
15:10 -	GP250 スタート進行(コースイン～選手紹介)
15:25 -	GP250 決勝レース.....30Laps

※レース終了後～サーキットクレンジング



楽しみ方いろいろ。MFJ SUPERBIKEの情報満載

2007年もGAORA (CS放送) で全戦放映!! 地上波ローカルTV局ではダイジェストを放映!
レース速報はMFJオンラインマガジン mfj.or.jp
情報満載のファンサイト superbike.jp へ!!

前回のウイナー亀谷長純も好調を維持している。アベレージもいいだけに、今回も中盤から前に出てくるレースとなるか!? 今回もレース序盤での踏ん張り が課題だ。

JSB1000、1年目の酒井大作も好調だ。慎重に丁寧にスムーズに走らすことに重点を置きながらライディングし、金曜日はトップタイムをマーク。予選でもタイムを縮め、3番手フロントロウと存在感を示している。決勝で、どんな走りを見せてくれるか注目だ。

同じくJSB1000、1年目の横江竜司は、開幕直前に鎖骨を骨折したため、今回がデビューレースとなる。まだ、ケガは癒えていないものの、セカンドロウ8番手グリッドにつけた。

公式予選では、開幕戦からキレのあるライディングを披露していた中須賀克行が予選2回目開始早々に第2ヘアピンで転倒。骨折はなかったものの肺挫傷となってしまう残念ながら決勝はキャンセルすることになってしまった。また、今野由寛は、オートポリスのテストで転倒。腰椎を破裂骨折する重傷を負い、現在も福岡の病院に入院中。鈴鹿300kmからの復帰を目指していると語っていた。

ポールポジションの秋吉から僅か1秒差の中に15人のライダーがひしめく結果となった公式予選。前回は、ズルズル後退してしまった秋吉がリベンジを果たすか? 猛者がひしめくJSB1000クラスを見逃すな!



POLE POSITION 秋吉 耕佑 0'56.140

「金曜はエンジンのチェックと車体のバランスを見つめ直して、問題はまだまだ残っているけど、少しずつ可能性が出てきた。予選ではタイヤを3セット全部使って、基本的なセットアップをごっそり変えた。(コーナーの) 入り口と出口がまだ遅いけど、そこをまとめればタイヤももつし、いけると思う。決勝は、予選で同じA組だった中では亀谷君が速そう。山口君のマシンも決まっているみたいですね。悪い部分が減ってきているので、僕にもなんとか勝機はあると思います」

JSB1000 CLASS STARTING GRID

1	56.14 4 秋吉 耕佑 S-GSX-R1000	2	56.194 81 阿部 典史 Y-YZF-R1	3	56.251 39 酒井 大作 S-GSX-R1000	4	56.318 10 亀谷 長純 H-CBR1000RR
2	56.377 76 渡辺 篤 S-GSX-R1000	6	56.414 54 徳留 和樹 H-CBR1000RR	7	56.501 87 柳川 明 K-ZX-10R	8	56.51 62 横江 竜司 Y-YZF-R1
3	56.517 48 手島 雄介 H-CBR1000RR	10	56.526 3 山口 辰也 H-CBR1000RR	11	56.657 75 大崎 誠之 Y-YZF-R1	12	56.657 73 安田 毅史 H-CBR1000RR
4	56.942 83 森脇 尚護 H-CBR1000RR	13	56.985 9 中須賀 克行 Y-YZF-R1	15	57.119 7 辻村 猛 H-CBR1000RR	16	57.215 71 津田 一磨 H-CBR1000RR
5	57.934 30 波多野 祐樹 S-GSX-R1000	17	58.016 17 山中 正之 H-CBR1000RR	19	58.045 6 出口 修 H-CBR1000RR	20	58.086 11 須貝 義行 H-CBR1000RR
6	58.096 24 河田 庄平 K-ZX-10R	21	58.579 21 名倉 嘉一 H-CBR1000RR	23	58.769 16 川瀬 裕昌 S-GSX-R1000	24	59.023 85 古川 力也 H-CBR1000RR
7	59.106 333 鈴木 大五郎 S-GSX-R1000	26	59.127 53 石川 朋之 S-GSX-R1000	27	59.25 33 松井 秀樹 H-CBR1000RR	28	59.405 46 掛江 裕二 MV-F4-1000S
8	59.46 69 里 実 H-CBR1000RR	29	59.474 58 鍋城 正八 H-CBR1000RR	31	59.745 38 原田 洋孝 K-ZX-10R	32	1'00.257 79 磯谷 晋一 H-CBR1000RR
9	1'00.301 77 金山 和弘 S-GSX-R1000	33					

2007 Asia Nations of Road Racing in Japan

2007アジアネーションズ・オブ・ロードレース・イン・ジャパン

アジア国別対抗ロードレース日本大会初開催!

ニッポン代表を応援しよう! ●予選日: 天候 / 晴れ 路面 / ドライ
●決勝コースイン / 12:10 スタート / 12:25 (12周)

2006年よりアジアモーターサイクルユニオン(UAM)傘下で開催が始まったアジアネーションズ・オブ・ロードレース大会は、アジア各国のフェデレーションが2名の代表選手を派遣し、2名のライダーの順位をもとに勝利国を決定する団体競技で、いわばオートバイのワールドカップのような大会である。大会の目標は、アジア各国のモーターサイクルスポーツのレベルが向上し、国際交流が促進されることだ。

今年はこのアジア国別対抗ロードレース大会が年間シリーズとして開催されることになり、ここ筑波サーキットで第1戦が行われることとなった。決勝レースは2レース制(土曜・日曜それぞれ1レース)で、すでに昨日の決勝レース(1)で初代ウイナーには〇〇が輝いている。国別順位は、各レースで与えられる2名のライダーのポイントを積算し合計点数の少ない順番に決められる。今日の決勝レース(2)では、近年レベルアップの目覚ましいアジア各国の代表チームと地元日本代表チームの激しい戦いが繰り広げられるはずだ。日本代表チームに熱い声援を!

UAM Qualify

Pos No.	Name	Time	Team
1	Rattaphong WILAIROT	1'13.672	Team THAILAND
2	Jungo AZUMA	1'13.902	Team JAPAN
3	Fendrik Alam PRIBADI	1'14.139	Team INDONESIA
4	Iori NAMIHIRA	1'14.366	Team JAPAN
5	Maico BUNCIO	1'14.647	Team PHILIPPINES
6	Dony Buwono APRIANTONO	1'14.858	Team INDONESIA
7	Sittisakh ONCHAWIANG	1'14.908	Team THAILAND
8	Ashwin SUNDAR	1'14.937	Team INDIA
9	Su Rong ZAI	1'15.229	Team CHINA
10	Zeng Jian HANG	1'15.575	Team CHINA
11	Benjo MENDOZA	1'15.832	Team PHILIPPINES
12	Shi Yi CHIU	1'16.685	Team CHINESE TAIPEI
13	Sergio LACERDA	1'16.754	Team MACAU CHINA
14	Mohamad Esmon Bin OMAR	1'17.395	Team SINGAPORE
15	Peter TAN	1'17.692	Team SINGAPORE
16	Wen Nan SU	1'19.076	Team CHINESE TAIPEI
17	VONG Tak King	1'20.921	Team MACAU CHINA



決勝レース(1)で優勝したのは、ラタボン・ウィライロー(タイ)。今年、全日本GP125クラスにフル参戦している。

右手甲を骨折している新垣敏之がポールポジション

今シーズンからサスペンションの変更が認められたST600クラス。ホンダ、カワサキがフルモデルチェンジし、ラップタイムの向上が予想されたが、セッティングの範囲が増え、逆に問題を抱えているライダーが多いようだ。

今回コースレコードの更新はなく、59秒を切るライダーは、なかなか現れなかった。そんな中、ただ一人58秒台をマークしたのが新垣敏之だった。新垣は、昨年の第6戦岡山決勝で転倒し、両足首を骨折。今シーズンからマシンをホンダにスイッチしたが、筑波のテストで右手、中指と薬指の甲を骨折。固定するピンが入っている状態ながら、ポールポジションを獲得してしまったのだ。「うまく力が抜けてよかったのかもしれない(笑)。エキゾーストを中速よりのものにしたら、いい感じになってきた」と新垣。

2番手につけた小西良輝も燃えている。「開幕戦は、セットアップする時間がなさすぎた。テストする度にマシンがよくなると言うより、人間がマシンに合わせられるようになってきている。チャンピオンを獲るために決勝は、悪くても1位、よくても優勝」と勝つことしか考えていない。3番手の寺本幸司も好調をキープ。ブリヂストン勢が7番手までを独占。前回のウィナー佐藤裕児が8番手につけるが、ダンロップ勢は苦戦している。決勝は、59秒台で繰り上げられることになりそうだが、そこから、どれだけ踏ん張れるかが上位に進出するカギだ。



POLE POSITION 新垣 敏之 0'58.847

「ポールポジションを取るつもりはなかったんですけどね(笑) 27日の筑波のスポーツ走行で右手の甲を骨折していたので、力が抜けたのが良かったのかも。今年のマシンはトルク型なのでセットアップが難しいんだけど、テスト品のエキゾーストパイプを試していたら、なかなかいいものが見つかりました。今年のモデルはシャーシが華奢で、頑張りすぎるとタイムが出ない。周りには「新垣っぽくないね」と言われるけど、そーと走ったらタイムが出ちゃったみたいなきな

ST600

公式予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	17	新垣 敏之	58.847	ARA 虎の穴 Bikers
2	73	小西 良輝	59.032	team HARC-PRO.
3	5	寺本 幸司	59.07	Moto Mag VEGA
4	12	野田 弘樹	59.172	レーシングチーム ハニービー
5	6	奥野 正雄	59.217	伊藤RACING・GMDスズカ
6	88	武田 雄一	59.261	Team 桜井ホンダ
7	25	東浦 正周	59.301	プラスミュージングチーム
8	10	佐藤 裕児	59.305	ジュビロレーシング チーム
9	8	高橋 英倫	59.332	TEAM GREEN
10	43	生形 秀之	59.358	エスバルスドリームレーシング
11	20	岩田 悟	59.367	F.C.C.TSR
12	55	高橋 江紀	59.384	DyDo MIU Racing
13	705	黒川 武彦	59.471	松本クリニック中村Egスピード
14	72	宮 敦	59.591	DOG FIGHT RACING
15	45	泉本 美智夫	59.736	ホンダドリーム北九州R.T.S.M.I
16	23	沼田 憲保	59.745	HITMAN RC甲子園ヤマハ
17	29	津田 拓也	59.763	チームOSG&モトスポーツ
18	51	泉本 真宏	59.785	RT森のくまさん 佐藤塾仙台
19	35	佐竹 隆幸	59.824	モリワキクラブ
20	11	森 新	59.85	team HARC-PRO.
21	28	清水 都巳	59.862	DREAM高崎B'WISE R.T
22	19	鶴田 竜二	59.891	TRICK STAR TAMITON-R
23	37	行方 知基	59.896	ヨシムラスキwithJOMO
24	58	大木 崇行	59.909	Club HARC-PRO.
25	76	清水 直樹	59.968	RS-ITOH&KAZE
26	99	高杉 奈緒子	1'00.033	レーシングチーム ハニービー
27	65	小菅 岳大	1'00.055	Club HARC-PRO.
28	27	中山 真太郎	1'00.098	Kohara RC
29	85	中島 大輔	1'00.102	MAX-SPEED
30	56	原田 真史	1'00.128	Club HARC-PRO.
31	15	福垣 誠	1'00.143	パニングブラッドRT
32	44	児工 秀太	1'00.249	DDBOYS Racing
33	34	川原 実	1'00.263	TEAM PLUS ONE
34	39	福田 隆夫	1'00.285	ベスラレーシング
35	69	小林 龍太	1'00.337	パニングブラッドRT
36	33	下地 申悟	1'00.341	アンビジャス Panasonic LUMIX
**** 以上予選通過 ****				
37	62	中津原 尚宏	1'00.488	研友会極木PGレーシング
38	57	横塚 好弘	1'00.518	SBS磐田
39	60	吉畑 博志	1'00.561	RTハニービー-松田聰
40	89	須磨 貞仁	1'00.569	ホンダドリーム北九州RT
41	54	井上 哲悟	1'00.640	TRICK STAR TAMITON-R
42	38	安田 喜一	1'00.877	DOG FIGHT RACING
43	77	小田 茂野	1'01.098	ホンダショップナガノR-T
44	61	小島 康孝	1'01.310	MC Racing
45	83	小野 照央	1'01.370	TAMITON-R
46	91	ダニエル・シルバ	1'01.819	ケンツJトラストレーシング
47	98	小田 和玄	1'02.046	ケンツJトラストレーシング
48	87	吉田 真悟	1'02.098	ホンダドリーム北九州RT
16	大石 正彦	出走せず		伊藤RACING・GMDスズカ
64	和田 憲史郎	出走せず		VEGA SPORTS
予選通過基準タイム(110%) A組1回目(1'04.731) A組2回目(1'04.958) B組1回目(1'05.089) B組2回目(1'05.235)				
Entry :50 Start :48				

ベテラン徳留真紀がP.P.をゲット! 全日本初優勝なるか!/?

前日からの強風もやみ、快晴となった土曜日の筑波。朝から気温も順調に上昇していた。

8時30分からスタートしたGP125の公式予選1回目、A組の徳留真紀が1分0秒034でトップタイムをマーク。2番手につけたのは岩田裕臣。B組の渡辺一馬が3番手のタイムをマークした。

予選2回目は15分という短い時間の中で、A組の岩田と富沢祥也が1回目の自己ベストタイムを更新。しかし徳留が午前に出したタイムにはわずかに届かなかった。B組では竹内吉弘が午前の自己タイムを上回ったが、上位陣のほとんどが午前のタイムでグリッドを決める結果となっている。

ポールポジションを獲得した徳留は、第1戦もてぎの予選で尾てい骨を骨折し入院、退院したのはわずか2週間前で、万全なコンディションとはいえない状態だった。

「別にポールポジションにこだわっていたわけではないんです。肝心なのは決勝ですから」と言うように、予選2回目ではセッティングを確認するために時間を費やした。「午後はリアタイヤだけ新品に代えたのでバランスが悪かった。フロントも代えていれば1回目の予選を上回ったと思う。それでも1分0秒台は出ていたから、マシンの状態ははずれていないはず」と徳留。94年から6年間、世界選手権で活躍していた徳留だが、意外にも全日本での優勝はまだ経験していない。「筑波はもてぎの次に苦手なコース」でありながら、あっさりポールポジションを奪ってしまった徳留。この筑波で念願の初優勝が見られるかも知れない。

フロントロウには、徳留、岩田に続き、ユースカップを争うティーンズライダーの渡辺、富沢が並んだ。若手の活躍にも注目したい。



POLE POSITION 徳留 真紀 1'00.034

「もてぎの予選で転倒して尾てい骨を折ってしまい、1ヶ月間入院していたので、体力が落ちてしまった。金曜日から調子は良かったけど、ボールが取れるとは思ってなかった。全日本で優勝したことがないので、優勝できれば嬉しいですね。走った感じは悪くないし、マシンが最後までこの調子でいてくれればね。予選は2組に分かれていたし、同じグループだったライダーとも全然走っていないので、リズム的にも(決勝の展開は)わからない。決勝では最初はまず様子見かな。スタートさえ悪くなければそんなに心配はないと思います」

GP125

公式予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	11	徳留 真紀	1'00.034	TEC.2&Feel
2	6	岩田 裕臣	1'00.062	TEAM PLUS ONE
3	48	富沢 祥也	1'00.071	TeamProjectuFRS
4	55	渡辺 一馬	1'00.115	DyDo MIU Racing
5	5	井手 敏男	1'00.383	FeelTEC2
6	61	柳沢 誠	1'00.421	18 GARAGE RACING TEAM
7	10	仲城 英幸	1'00.446	TEAM ASPIRATION
8	15	浪平 伊織	1'00.531	Honda鈴鹿レーシングチーム
9	4	菊池 寛幸	1'00.644	BATTLE&ミハラレーシング
10	13	山田 亮太	1'00.712	TEAM PLUS ONE
11	3	竹内 吉弘	1'00.719	RP馬行&YUE&Promathic-I
12	16	菅谷 慎一	1'00.919	TEAM PLUS ONE
13	99	R.WILLAIROT	1'01.006	Thai A.P.Honda With HARC-PRO
14	68	篠崎 佐助	1'01.056	ENDURANCE&福川塾
15	71	矢作 雄馬	1'01.074	福川塾&ENDURANCE
16	7	井上 誠	1'01.128	BATTLE&ミハラレーシング
17	79	清水 達夫	1'01.149	Club FRs
18	31	小磯 栄	1'01.203	モトアルファ&大洗サーキット
19	50	尾野 都司	1'01.228	BATTLE&ミハラレーシング
20	24	水野 那由太	1'01.233	TEC.2&Feel
21	65	船田 英生	1'01.261	チーム ウイラー
22	35	坂井 幸雄	1'01.277	Team SMOKY
23	57	池ノ谷 隆	1'01.323	※KTRスポーツクラブ☆
24	19	大石 義次	1'01.337	TEC.2&Feel
25	29	水品 滋成	1'01.464	ベントグラムII
26	33	福嶋 健介	1'01.559	racing sayama
27	27	天野 邦博	1'01.612	ホンダ狭山レーシングチーム
28	21	長谷川 悠	1'01.626	RISKY+ホワイトレーシング
29	8	山本 武宏	1'01.637	チームMARINEコスモス+G
30	74	藤田 悟	1'01.640	KTR&ENDURANCE+OSL
31	45	加藤 洋治	1'01.660	Club FRs
32	82	山内 隆史	1'01.664	レインボーギフト&YUE
33	76	尾野 弘樹	1'01.765	BATTLE&ミハラレーシング
34	73	山本 剛大	1'01.775	Club HARC-PRO.
35	59	石川 学術	1'01.792	Team.i-FACTORY.
36	25	古市 右京	1'01.797	TEAM ASPIRATION
**** 以上予選通過 ****				
37	18	國吉 基寛	1'01.802	SMFLレーシング MKN
38	75	松村 徳仁	1'01.847	KTR&ENDURANCE
39	53	人見 朝吾	1'01.863	YUEレーシング
40	72	和川 卓也	1'01.912	チーム KOHSAKA
41	41	沖藤 陽一	1'01.995	オートテックスポーツ48会
42	34	浅中 元昭	1'02.048	YSSLレーシングアクティビティ
43	77	今川 中 満	1'02.122	RISKY+ホワイトレーシング
44	36	藤原 洋介	1'02.214	丸竹TEAM FORS SEJ
45	52	増田 雄亮	1'02.296	Honda鈴鹿レーシングチーム
46	84	橋本 齊志	1'02.471	Club Y's
47	28	瀧木 直樹	1'02.487	テクニカルスポーツ関東&TOS
48	49	川瀬 幸一郎	1'02.684	チーム KOHSAKA
49	70	福島 宏幸	1'02.976	RISKY+ホワイトレーシング
14	幸寛	出走せず		RISKY+ホワイトレーシング
23	中村 貴紀	出走せず		Team Life
78	田村 大樹	出走せず		Club FRs
予選通過基準タイム(110%) A組1回目(1'06.037) A組2回目(1'06.068) B組1回目(1'06.126) B組2回目(1'06.399)				
Entry :52 Start :49				

宇井陽一がセッションを制覇!

開幕戦を制した宇井陽一が今回も好調だ。「筑波は得意ではない」と言いながらも、常にセッションをリードするライディングを見せた。

GP250クラスの公式予選は、今回も1セッション(35分)のみで争われた。宇井は、早い段階でタイムアタックに入り58秒2をマーク。常にリーダーボードのトップにつけ、セッション終盤にソフトタイヤを履いた宇井は、ただ一人57秒台に突入し、ポールポジションを獲得した。

「いい感じですね。足回りに関しては、レースウイークに入ってから何もいじっていない。58秒がカベになっていたので、自己ベストがでてうれしい。(高橋)巧も及川さんも筑波を得意としているライダー。ボクのライディングは、中高速コーナーに合っているから、筑波は、まだ克服中。ただ、最終コーナーには自信がある。決勝は、誰が何と言おうとチャンピオンになるために勝ちにいきたい」と強気のコメント。

2番手には、高橋巧がつけたがマシンもライダーも今一つと言う。「昨日までは、うまくブレーキングポイントを取れず調子を崩していた。決勝は、スタートを失敗しないようにして、トップ争いをして勝ちたい」と高橋。3番手の及川誠人も事前テストから金曜までハマっていたと言う。「ようやく決まったというか戻った。58秒台中盤では走れる自信があるので周りを見ながらいく」と及川。4番手の富沢祥也は「両クラスとも、あと一歩の出来なんです。トップ争いについていければ、最後に勝負したいですね」とコメント。

レースは、宇井がイニシアチブを握りそうだ。果たして宇井が独走となるか? 高橋、及川、富沢が意地を見せるか!?



POLE POSITION 宇井 陽一 0'57.941

「事前テストでハイサイドをしかけた時にあばらを打って、筑波は忙しいサーキットなので、その痛みが出てしまった。でもレースになれば気にならないと思う。マシンはある程度もてぎでベースができていたので、その後SUGOでテストをした時にセッティングを煮詰め、自分好みのマシンに仕上がってきた。マシンには金曜から何もさわっていない状態です。30台がいったん走ったのでクリアラップが取れず、想定していた予選タイムは出し切れなかった。ダンロップタイヤは今年ものすごく進化しているので、決勝はタイヤを信じていいペースで走りたい」

GP250

公式予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	41	宇井 陽一	57.941	PRO-TEC&Spruce
2	4	高橋 巧	58.016	バーニングブラッドRT
3	5	及川 誠人	58.453	ウィルアクセス&プラスミー
4	48	富沢 祥也	58.696	TeamProjectJFRS
5	7	酒本 裕基	58.894	TEC2&Feel九州共立大学
6	19	伊藤 勇樹	58.901	DOG FIGHT RACING
7	14	及川 玲	58.916	ベントグラム&株義岡&M-Ra
8	56	山崎 都	58.956	HITMAN RC甲子園国マハ
9	93	遠藤 卓実	59.081	PRO-TEC&新潟工業短大
10	15	豊田 浩史	59.113	D,REX
11	8	秋田 貴志	59.221	HenkeITDRYAMAHA
12	92	園川 浩道	59.253	SP也男レーシングチーム
13	36	飯塚 弘樹	59.531	ガレーチ国政&飯塚自動車商会
14	16	櫻井 大幸	59.633	KEIHINKoharaR.T.
15	45	Doni Tata Pradita	59.761	ヤマハ インターナショナル
16	37	島村 英一郎	59.869	SP-V-インプラント駒津歯科-ikbs
17	6	秋谷 守	59.873	チーム モトスペース
18	34	小口 理	59.977	ALLMAN&OW小口歯科
19	65	二瓶 彰	1'00.084	SP-V&寿レーシング
20	31	渡辺 一樹	1'00.192	TeamDankeRacing
21	62	中本 都	1'00.328	RT-OUTRUN
22	25	福山 京太	1'00.423	TeamDankeRacing
23	26	柴原 誠	1'00.457	TeamDankeRacing
24	72	木村 旭厚	1'00.518	PRO-TEC日大工学部機械研
25	29	依田 幸久	1'00.779	TeamDankeRacing
26	47	小口 亙	1'01.466	ALLMAN&OWRACING
27	28	大城 光	1'01.735	Oshiro R-全田工業様
28	73	鈴木 正彦	1'01.998	INTEGRAL Racing
***** 以上予選通過 (1'03.735 - 110%) *****				
29	27	斎藤 一輝		パワーバイレーシング+MRF
30	岩井 耕治	出走せず		GBS+ナカノレーシングプロジェクトNR

中木亮輔が大幅に記録を更新しポールポジション

39台が出走したGP-MONOクラスは、中木亮輔が、これまでのコース記録を大幅に更新する1分01秒468をマークしてポールポジションを獲得。この中木のタイムは、2番手の山下祐に約1秒以上の差をつける圧倒的なタイムだった。「周りがタイムを出してこなかったのが意外だった。決勝はできれば逃げたいけれど、小室くんは、ボクに負けられないでしょう」と中木。

ディフェンディングチャンピオンの山下は2番手につけ、ヤマハエンジンが1-2。開幕戦でも圧倒的なストレートをスピードを見せていたヤマハ勢だが、今回の筑波でも速さを見せつける結果となっている。

3番手につけた小室旭は、今回からニューフレームを投入。足回りのセットアップを着実に進めており、決勝への自信をのぞかせる。

「とにかく中木くんを逃がさないように。スタートから前に出てレースをコントロールしていきたい。負ける気はしないですよ」と2連勝しか見えていない。

6番手につけた星野知也は、予選中に他車と接触し転倒。決勝日朝のウォームアップを走ってから、レースへの出場を決めるという。

上位6名のライダーが、これまでのコース記録を更新。これまでにないハイレベルな戦いが繰り広げられそうだ。



POLE POSITION 中木 亮輔 1'01.468

「GP-MONOは、もてぎのレースウイーク以外はSUGOで1度走っただけで、まだバイクのことがよく分からない感じで乗っているんですが、金曜からのセッション全て僕がトップタイムだった。周囲のタイムが上がらないことはちょっと予想外でした。僕は自分なりに一生懸命走っていただけですから。決勝では逃げ切れないとは思いますが、理想の展開としては逃げたいですね。(他クラスのポールポジションは)みなさん海外で走っていた方々なので、肩を並べることができて嬉しいです」

GP-MONO

公式予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	42	中木 亮輔	R1'01.468	MIRACLE POWER R
2	1	山下 祐	R1'02.542	ZBユビクツR-PLUSONE
3	56	小室 旭	R1'02.544	TeamProjectJFRS
4	83	乃村 康友	R1'02.646	モリワクラブ
5	5	吉川 真一	R1'02.698	チームライディングスポーツ
6	46	星野 知也	R1'02.699	エスバルスドリームレンジャー
7	2	森 隆嘉	1'02.917	TEAM PLUS ONE
8	29	斎藤 幸大	1'03.441	パワーバイレーシング+MRF
9	30	三好 瑛輔	1'03.799	パワーバイレーシング
10	32	伊東 忠孝	1'03.882	racing ライドスポーツ
11	9	阿部 徹郎	1'03.975	あべスピ&ヤマハ&セルコホーム
12	49	舟橋 潤	1'04.092	ファイヤーガレージ
13	3	岡田 義治	1'04.208	MRF&プロマチックアイ
14	4	赤間 清	1'04.282	CLUB HARC-PRO.
15	15	永田 正己	1'04.351	TW's&RAVE-ON+ZB
16	10	平石 理	1'04.411	レーシングチーム ハニービー
17	39	藤原 翔平	1'04.457	NORIAxis RACING
18	50	小林 功	1'04.643	ウルマン&ヨシハル☆GRP☆
19	73	山本 晃大	1'04.757	CLUB HARC-PRO.
20	55	比企 徹	1'04.758	DyDo MiU Jr.
21	52	小畑 仁	1'04.786	MOTO WIN RACING
22	44	橋元 晃一	1'04.914	Garage130R&FUSE
23	20	江 屋 学	1'04.917	IS-P.CC/プリミティブR
24	37	福岡 大吾	1'05.037	M-A-R-S
25	16	榊原 徹	1'05.039	ZIPBIKE豊橋ユビクツR
26	26	高橋 哲也	1'05.137	ウイニングラン
27	40	吉島 正治	1'05.145	YG55&RH松島
28	43	山田 俊樹	1'05.337	BBRT-J
29	36	中野 佳樹	1'05.359	アゲインレーシングクラブ!
30	68	中村 公彦	1'05.386	IS-P.CC/プリミティブR
31	88	植田 智広	1'05.504	Team Life
32	19	法月 多嘉夫	1'05.534	M.A.R.S elf
33	66	稲垣 徹	1'05.536	バーニングJr.アケノS
34	34	山口 慶高	1'05.692	TEAM MIKUNI GPmono
35	77	手塚 隆司	1'06.174	ナップス港北&チタック&EK
36	35	濱田 貴史	1'06.189	ユビクツンタR-PlusOne
***** 以上予選通過 *****				
37	27	重野 治	1'06.608	JBS☆ミニ☆サブクラブTR
38	45	笹崎 明仁	1'06.760	Garage130R&FUSE
39	38	安川 遼江	1'10.914	MHマツモト&ビルドワークス
7	藤 直之	計測出来ず		チームスガヤ&PILOTA
12	野野 明治	出走せず		ホットバンクUSA&GET HOT
23	小山 隆浩	出走せず		18 GARAGE RACING TEAM
47	松永 直人	出走せず		アゲインレーシングクラブ
48	田中 信次	出走せず		アゲインレーシングクラブ
予選通過基準タイム(1'08.403 - 110%)				
Entry :44 Start :40				
"R" マークは、コース記録を更新しました。従来の記録タイムは 1'02.819				